



し しん かい
志 真 会

滑川市議会議員

会報 2024
8月発行

連日の猛暑にかかわらず皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。我々志真会も暑さに負けず皆様の声を聴きまわり、良い街づくりをするために今後も発信し続けていきますので、どうぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国連における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、国では積極的な取り組みを行う地方公共団体に対して「SDGs未来都市」として選定しています。本年度、滑川市は「SDGs未来都市」と認定されました。今年度まで206の地方公共団体が認定されており、今後2030年度までの目標達成に向けて、国の支援を受けながら市民や企業の皆様と共に各種事業を具現化していき、取り組んでまいりますのでご協力を宜しくお願いいたします。さて、市議会におきましては、令和6月度定例会にて今年度初の補正予算等を議案通り、全会一致で可決しました。この予算を市民皆様に知っていただくことと、予算が適正なのか議案の詳細をチェックするのが我々市議会議員の大きな仕事の一つであります。

6月度定例会の補正予算額は、

一般会計 4億3,317万円（補正後予算額143億196万円）

審議が多くあったものや予算額が多きものは以下の通りです。

①SDGs推進事業費（総額1,196万円 うち、国の補助598万円）

上記記載のとおり、本年度SDGs未来都市の認定をいただきました。国からの補助金をいただきながら目標達成のために進めていきます。本年度は、SDGsの普及啓発やホタルイカ定置網網漁をAR（拡張現実）にて体験できる仕組み、また、GXアドバイザーの人材育成費として利用していくこととなりました。

②防災対策推進費（総額1,151万円 全額、市の一般財源）

元旦に発震した令和6年能登半島地震をうけ、市が職員アンケートや市民アンケートを取りました。いただいたご意見をもとに災害に強いまちとするため、指定避難所に対して開錠を容易にするためのスマートロック式キーボックスの設置、避難所開設・運用時に必要なマニュアルや物品等をまとめた「避難所開設ボックス」の配備の他、防災パンフレットの作成、海拔表記看板の再設置等の費用となっています。

③学校給食費補助事業費（739万円 全額、市の一般財源）

滑川市は、令和4年・5年と2年連続小中学校の学校給食費を増額改定してきました。これまでは、その年の増額分は市で補填しており、次年度より実質値上げされています。令和3年度より1食あたり39円～46円の値上げとなっており、児童生徒1人あたり年間8千円～9千円程の負担増となっています。本年度は、値上げは行わず、不足分を市で補い、年度末に価格の検討を行う予定となっております。

以上簡単ではございますが、令和6年6月度の補正予算の一部内容をお伝えさせていただきました。まだまだありますが、その他は、会派各議員の質問内容にも盛り込まれている部分もあります。また、YouTubeにて録画配信されていますので、QRコード等からご確認ください。市の為には皆様のご意見等も多くお聴きしたいので見かけましたら声をかけていただければと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

竹原正人 議員



議会で質問した内容

6月定例会では、①ふるさと龍宮まつりの今後の展望について ②小中学校における熱中症対策について ③観光振興について ④軽自動車税の納税証明書の取り扱いについての4項目を質問しました。ここ2年半、代表質問をしてきましたが、久しぶりの一般質問になりました。質問順位も抽選で決まる事から何番手になるかソワソワしましたが、初日の質問日で落ち着きました。①ふるさと龍宮まつりの質問では、今年から自治会連合会の協力が得られず、各町内会の街流しが任意参加となり、規模縮小が懸念されることから、今後の取組について市としての対応を伺いました。また海上花火大会においては、昨年の見物客の混雑緩和策について伺いました。いずれも天候次第で盛り上がりは変化しますが、滑川市の一大イベントとして定着している以上、次年度以降も多くの市民の参加のもと、このまつりを盛り上げていきたいと思います。

最近気になること

今年はパリオリンピックが開催されることから、スポーツ観戦に熱が入り寝不足が気になります。

谷崎潤一 議員



議会で質問した内容

6月定例会では、5月に滑川市がSDGs未来都市に選定されましたので、再生可能エネルギーの推進や市の管理する用水路の維持管理、通学路と生活道路のさらなる安全対策、季節や天候に左右されない観光資源についてを質問させていただきました。

再生可能エネルギーを使った発電事業につきましては、市単独事業では膨大な予算がかかり、費用対効果を考えると現実的ではありません。しかし他の自治体での事例ではその地元企業と協力し、公民連携とすることで市の負担も減り現実的ではないかと質問させていただきました。

通学路・生活道路につきましては、児童生徒が犠牲になる痛ましい事故のニュースが後を絶たない状況で、滑川市内の生活道路や通学路のさらなる安全対策は出来ないのか質問させていただき、前向きな答弁をいただきました。

最近気になること

富山県PTA連合会のワンチームとやま推進委員会に所属しており、最近よく耳にするのは県立高校再編の話題です。高校再編では、無くす検討ではなく、存続させる方法を是非検討していただきたいと思います。

安達真隆 議員



議会で質問した内容

今回は大きく分けて3つの質問をしました。①みのわ温泉再開について

質問し、修繕の進捗を確認しました。水野市長からは、1月の能登半島地震の発災をうけて、お湯が上がるか調整する試験が必要になったため復旧工事が4月からとなり、6月末の完成に向けて順調に進んでおり、7月1日から復活すると答弁があり現在順調に再開しているとの説明でした。②市内の公園の運営管理については、休憩施設の掃除など誰がいつ行うことになっているかについて質問しました。岩城建設部長からは、市で管理している公園の維持管理は、市内各造園業者に樹木選定や草花の維持管理の他、シルバー人材センターへ各公園内の確認や維持管理運営委託しており毎週4日間巡回していると答弁がありました。しかしながら現在、維持管理が悪いため改めて維持管理掃除の徹底を求めました。③のるマイカーについては、8月から中学生の下校に配慮した時刻改正を行うことになったが、どのようになったかを問い、新ダイヤとすることにしており、利用者の利便性の向上に努めるとの答弁がありました。

最近気になること

今年も猛暑日が多いことから今後の気候状況が心配です。

青山幸生 議員



議会で質問した内容

6月定例会では、初めて会派を代表して質問を致しました。主な内容は

①補正予算について ②重点事業要望について③子育てしやすいまちづくりについてです。①については SDGs 未来都市の選定を受け、普及啓発についての具体的な実施方法を確認しました。「市民向けには SDGs の意識啓発のためのイベント開催を、また企業向けには SDGs 宣言文の作成支援に関する事業にサポートをする」との答弁でした。また、「富富富」乾燥調製施設整備に対する補助において「整備する乾燥機はどのぐらいの量を使用できるのか」という質問には、1台一日当たり約5tの処理能力を有する乾燥機を14台更新し、令和8年産の「富富富」の荷重量を年間901tまで目指していることを確認しました。③に関しては、本年4月に開設したこども家庭センターの現状について聞きました。「子育てや家庭のトラブル等の養育者のストレスや不安、また、子どもの発育および発達相談に多種の専門職が対応していることで、以前より相談件数が増えている」との答弁をいただきました。その他、市民健康センターの母子保健事業、子育て支援センターでの保護者同士の交流を含めて、互いにより連携していただくよう要望しました。

吉森真人 議員



議会で質問した内容

6月定例会では大きく5つについて質問しました。①「鳥害の現状と

対策について」市内の平野においてアオサギがたくさん繁殖しています。大きな鳥で集団で巣を作る特徴があり、糞や鳴き声による被害や農作物に、影響が出ているので市として対策をとれないのか質問しました。また駆除するにも平野では銃による捕獲はできないことから、まずは実態調査から行っていただくこととなりました。②「ふるさと納税について」人気の返礼品や寄附金の使い道などについて質問しました。一番多いのは、ベニズワイガニであり次にホタルイカの産品が続いており、滑川は「漁業のまち」と認識されていました。寄附金の使い道も寄附者の希望通りに利用されていました。返礼品に空き家管理サービスやスキューバー等の体験型を入れたらどうかを提案しました。③「学校給食費について」2年連続で値上がりし、本市は国内でかなり高い給食費となっています。今後は、値上げをせずに足りない分を市で補填してもらえないか質問し、材料費の変動を見ながら検討したいとの答弁でした。その他 STEAM 教育の取入れ等「学校教育について」と新設された「公民連携課について」質問しました。詳細は、動画でご確認お願い致します。

コラムを編集後記に代えて

本年度、滑川市は“SDGs未来都市”に選定されました。SDGsとは“持続可能な開発目標”と訳します。最近テレビ等でよく目にするロゴ。17のゴール(目標)と169のターゲットが提唱されています。「持続可能性とは何だろうか?」その問いには同時に「持続可能な社会を阻むリスクは何なのか?」ということを考えなければなりません。例えば、ゴール③の気候変動に起因する自然災害は1980年代から頻度が倍増しています。これは増加するCO2排出、温暖化が原因となっています。またゴール⑥や⑧において、世界の武力紛争の代償は2015年には世界のGDPの9.1%に相当しました。現在ではロシアの武力行使、ガザの問題など、より代償が大きくなっています。またゴール⑭生物多様性の損失や生態系の被害については、環境汚染が深刻化していることが原因です。日本で度々ニュースにもなるゴール⑤ジェンダー差別、ゴール⑧先進国の債務増や相次ぐ企業の不祥事など、持続可能な社会を阻む様々な課題は数多くあります。SDGsとはこれらの課題を解決するために2030年までに取り組む指針です。

私が一番取り組みなければならないと考えているものはゴール③地球温暖化の対策です。かつて日本で起こった大飢饉の多くは冷害、かんばつ、水害やそれに伴う害虫の異常発生です。特に天明の大飢饉(1780年から1790年など)は諸説がありますが、多くの国で火山の噴火が起き、成層圏まで火山ガスの塵が上昇して日照不足になったことが原因と言われています。現代の異常気象は縄文海進以降、初の急激な温暖化です。気候変動により食料不安が高まると、当然ながら戦争や紛争が増えることは論を俟ちません。

しかしながら、様々なニュースを見ても温暖化を止めるために何が一番効果的なのかはあまり議論されていません。ポール・ホーケン著の「ドローダウン、地球温暖化を逆転させる100の方法」を読んだところ、地球温暖化の解決策第1位はエアコンの冷媒ガスの代替化でした。2位は陸上の風力発電、3位は食料廃棄の削減。まだまだやれることはあるのだと学びました。

政府実行計画には「設置可能な建築物および敷地の面積の約50%以上を目標に、太陽光発電設備を設置する」ということが掲げられており、地方公共団体にも国に準じた取り組みが求められています。滑川市からは「設置可能な公共施設へ太陽光発電設備の導入を進める」との答弁をいただきました。できることから一つずつ進めていければと思います。

青山 幸生